

## まちづくり町民講座（第147回）議事概要

- 1 日 時 平成27年10月 2日（金） 19:00～21:00
- 2 場 所 ニセコ町民センター 2階 研修室1
- 3 テーマ 外国人と考えるニセコの姿  
～ニセコ町は本当に「国際観光リゾート」なのか？～
- 4 講演者 金井自治創生室長
- 5 通 訊 ポールハガート商工観光課主査
- 6 オブザーバー 日本政策投資銀行北海道支店 西山次長
- 7 意見交換 下 記

### （意見1）

ニセコにいるほとんどの人は、雪（パウダースノー）を求めて来ている。

### （意見2）

ニセコエリア外から来るための交通アクセスで、倶知安町からニセコ町まで来るアクセスが特に悪い。他町村への通院等ではバスや電車の時間的なアクセスが悪すぎる。

また、スタッフを確保しようとしても、住まいから職場までのアクセスが悪く、バス等の通勤手段がない。

### （意見3）

ニセコ町に住んでみて、町づくりとして進んでいるのはわかるが、そうでないところも多く、町づくりに対するスピードが遅いと感じる。

### （意見4）

ニセコ町のブランドイメージについて、外国人のほとんどは「ニセコ」＝「ニセコ町」と認識していない。何年か住んで、やっとニセコ町があるということを知るケースがほとんどだと思う。

### （意見5）

ニセコはレストランの質が良くないと聞くが、ニセコ町内のレストランについては、私はとてもおいしいと思う。

### （意見6）

これからは夏のビジネスマーケットはとても大事になる。

### （意見7）

今日の議論で大事なものは、観光客をニセコに誘致する話ではなく、ニセコ町をいかにして魅力的にするかだと思う。学校整備の話が出ていたが、学校は倶知安町にあればいいと思う。ニセコ町に住んで通学すれば良い。周りの町村の力を借りるべき。広域的な視点でニセコ町は町を良くしていくべきではないか。

(意見 8)

若者を町に残るようにしたいという話だが、ここに住めというだけでなく、町にプライドをもってもらうことが大事。自分が小さい頃に魅力を感じた町へ戻ってきて活躍するためには、住んでいる場所でいい学校に行くことができれば良い。

(意見 9)

今日集まった人はほとんどが観光業をしているが、観光に付随する別の職種があれば良い。町は企業誘致をしてほしい。

(意見 10)

観光学やホテル学（ホスピタリティ）を学べる大学があればいいのではないか。世界的には地方でも良い町には良い大学がある。観光業に携わる外国人が多いというニセコの特性を生かして観光学科の大学を作れば良い。

(意見 11)

住民にとっては、ニセコ町のブランドイメージよりも、他の町より保育が充実している等の方が重要だ。

(意見 12)

ニセコにどういう人を呼びたいのかターゲットを絞り込むことが重要だ。外国人や日本人でもどこの地域、どの年代等、町の方向性を決めて絞りこむことが必要なのでは。

(意見 13)

公共施設を充実させることが必要ではないか。ニセコ町在住で倶知安町で仕事をしている人がほとんど。ニセコ町からヒラフ地区（倶知安町）へ移住させないためにもニセコ町として公共施設を充実させることが大事。ニセコ町は、世界の、山の麓にある町等の例を参考とし、できることを取り入れて行くべき。カナダのマウンテンリゾートでは、プールやダイビング等の運動プラス教育の施設が充実している。人を惹きつけるようなコーチプログラムやワークプログラムの充実がないと、子供たちが大きくなったらそれを求めてニセコ町から出ていくことも考えてしまうかもしれない。

(意見 14)

「町に住むためにプールを作る」＝「町に住み続ける理由」にはならないと思う。

(意見 15)

ニセコ町は、日本の他の田舎町と比較すれば、見た目の魅力はあると思う。町の良さを増すためには良い公共施設が必要だと思う。

(意見 16)

雇用や人口面で倶知安町・ニセコ町は成功している方だ。これまでの経過や成功要因の把握が大事だ。

(意見 17)

民間事業者がこれまでのニセコの発展を支えてきた。ニセコに来る観光客が増えて混み合ってきている。行政は、一事業者では負担しきれない資金が必要となる駐車場の整

備、ゲレンデの拡張やリフトの更新等のインフラの整備を担うべき。「民間事業者ができること」は町がすべきことではない。「スタッフ等の宿がない」問題はビジネスチャンスであり、一般企業にやってもらうべき。

(意見18)

ニセコがもっと有名になったら、競争相手は世界になる。世界中の人々が行ってみたいと思うような日本らしさ、ニセコらしさのグローバルポテンシャルをさらに引き上げるよう、町づくりをグローバルに考えていくべき。

(意見19)

ニセコのスキー場4社は世界的には買収のリスクがある。そのことに危機感を持つべき。「守り（ルールづくりやコントロール）」が公共の仕事ではないのか。町としての将来的なビジョンを示し、コントロールしていくべきだと思う。

(意見20)

50歳以上の海外富裕層の誘致が大事だ。スキルや資産を持っている人に住民になってもらい、町に貢献してもらおうといいと思う。オーストラリアはすでに取り組んでいるが、日本は遅れている。

(意見21)

5～10年プランをつくるといい。ニセコ町は5年後、10年後こうなるというプランを示すことができれば、もっと人が入ってくると思う。

(意見22)

農業・観光以外の職に就きたい移住希望者は多い。アイデアのある人（企業）を誘致すべき。通年雇用も大事。

(意見23)

アメリカでは大都市から田舎へ移住しインターネットで仕事するIT事業者が増えている。田舎での充実したライフスタイルがほしいから移住する。ニセコ町もインターネットやWifi環境をPRしていくべき。例えば、コンペをかけ、トップ5を2年間家賃無料にするなどして活躍してもらおうなど、ニセコ町を世界にPRしていくとさらに人が来るはず。

(意見24)

町に引っ越して楽しんでいるが、「元気な町」＝「教育が一番大事」だと思う。ニセコ町のインターナショナルスクールには良いスタッフもいるし、良い学校だが、学費が高いため生徒数が15名と少ない。インターナショナルスクールがあることをニセコ町のセールスポイントにしていくべきではないのか。ニセコ町は先駆けてバイリンガルな町を目指していくことをPRしていくべき。

(意見25)

10年間ニセコエリアに住んでいるが、7年間は近隣の町に住んでいた。行政がこうやって我々外国人を集めて、意見を求め、話を聞くという機会を作ってくれたことは今

まで一度もなかった。まずはそのことにお礼を言いたい。子供が生まれて、ニセコ町に移住先を選んだ理由はたくさんあるが、ニセコ町の方がウエルカムな雰囲気があると感じている。子供ができて、一番大事なのはやはり学校だと思う。インターナショナルスクールはお金がかかるので、補助制度を作ってほしい。ニセコ町内の公立学校の学力レベルの評判はどうなのだろうか。ニセコ町に今後も住んでいきたいが、町から出て行く原因があるとすればそれは学校だと思う。アメリカに帰ると、小さな町でもスポーツ施設等が充実している。子供たちのことを考えた妻が、ニセコから出たいと言い出しており、出て行きたくはないけどいつか出て行くのかもしれない。

(意見 26)

マウンテンリゾート、夏のリゾートをどう盛り上げるかが重要。成功している海外や他地域の分析をして考えればいい。倶知安町はサンモリッツと姉妹都市を結んでいるがニセコ町に姉妹都市がないので、ニセコ町もそういうつながりを持つべきではないか。

(意見 27)

役場のスタッフの数(80人)は多すぎる。世界中見ても7%くらいが平均だし、オーストラリアでは人口の1%しかいない。(会場から80人は2%程度との訂正の声あり)

(意見 28)

入国管理局にはいまだに外国人は「AL I E N」と書かれている。

(意見 29)

日本はまだ日本人プラスよそ者(外国人)と思っているのを強く感じる。

(総括)

今回の議論は大きく分けて5つに分類できる。

- 1) 人材育成を含む教育のさらなる充実(学校やバイリンガルタウン等)
- 2) 生活インフラの充実(交通アクセスや公共施設等)
- 3) 倶知安町との連携や比較
- 4) ビジネス基盤や環境づくりに対する行政の支援のあり方
- 5) その他(ニセコのPR、グローバルポテンシャルや他のリゾートエリアとの比較等)

以上